

脳神経センター長からの一言 vol.16

敷居の低い病院で大学病院並みの質の高い

脳神経内科医療を提供する意義

いつの時代も患者さんは、いい医療を求めていると思います。脳神経内科の病気は診断も治療も難しいことが多いので、なおさら質の高い医療が求められています。私は九州大学病院脳神経内科の教授を22年間務めました。質の高い医療という点では、やはり大学病院が一番と感じます。その一方で、患者さんは手軽に受診したいという気持ちが強いと思います。かかりつけ医の先生は、大部分は近所のクリニックの先生と思いますが、開業医の先生にお聞きしても大学病院に患者さんを紹介するのは、敷居が高いように言われます。患者さんにとってもかかりつけ医にとっても大学病院の敷居が高いと、正確な診断と適切な治療薬の導入が遅れがちになります。

脳や神経は一度傷つくとなかなか回復せず、大きな後遺症を残しがちです。一方、脳神経内科では、最近新しい治療薬の導入が、著しく進んでいます。アルツハイマー病や片頭痛といった頻度の高い病気にも、抗体医薬が導入されて、確かな治療効果を発揮しています。特に、アルツハイマー病のレカネマブやドナネマブ投与は、早いほど有効で、診断が遅れると、そもそも適応がなくなってしまいます。進歩の著しい脳神経免疫疾患の治療薬も同様で、できるだけ早期に診断して、できるだけ早期に治療薬を導入することで、脳や神経の障害の進行が食い止められます。

つまり、脳神経疾患は早期に診断して早期に治療効果の高い薬を導入することが、医療の大きなトレンドになっています。そのため、かかりつけ医の先生から手軽に紹介していただける敷居の低い病院が、今まで以上に必要とされています。当院は総合病院ですが、大きな病院ではないので、気安く受診しやすい病院です。看護師など医療スタッフも優しく穏やかな受け答えをする人が多いので、受診しやすいですね。脳神経内科は、専門医が10名（常勤医8名と非常勤医2名）もいますから、どの曜日に来られても経験が豊富な専門医の診療を受けられます。大学病院とは違って、その日のうちにすぐMRIも撮れます。脳波、誘発電位検査、筋電図、神経伝導検査といった臨床神経生理学的検査が、市内で一番充実しているのが、当脳神経内科の大きな強みです。今年12月に落成予定の福岡中央病院の新病院には、PETやSPECT/CT、AI技術搭載MRIも導入されますので、一層の診療の質の向上は

間違いありません。

敷居の低い総合病院で、大学病院並みの質の高い医療を迅速に提供することを、当脳神経内科では実践しています。それが早期診断・早期治療開始につながって、いい結果になっていると思います。

2025年8月1日
福岡中央病院 脳神経センター長
吉良潤一